

# 「わたしと心ぞうと学校」

志布志市立田之浦小学校三年

東 あずま 咲希 さき

「ズキン。ズキン。ギュー。」

時どきわたしの心ぞうは、

「いたいよ。くるしいよ。」

と伝えてくれます。それでもわたしの心ぞうは、みんなのやさしさのおかげで今日も元気に動いています。

わたしは、生まれてからずっと心ぞうびょうです。生まれてすぐに手じゅつをしました。

わたしのむねには、二十センチ位のきずがあります。わたしが生きたあかしです。でも、わたしのびょう気はなおりません。なおす薬もありません。なおす手じゅつもあります。

びょういんの先生が、「なんびょう」と教えてくれました。わたしが、

「なおっていますか。」

と聞いても、  
「まだなおっていないよ。」

と言われます。「どうして、どうして。毎日しつかり薬ものんでいるのに。走るのもがまんしているのに。こんなにわたしの心の中は元気なのに。」わたしは、とてもやさしくて、かなしい気持ちになります。心の中で、泣き

さけびそうになります。びょう院からもにげ出しそうになります。そんな時、母がギョツとわたしの手をにぎって、声には出しませんが、「大じょうぶ、大じょうぶ。そばにいるよ。」と心に伝えてくれます。そうすると、

わたしの心も落ちついてきます。母は、わたしの心の先生です。

心ぞうびょうでも、わたしの心はまけない

理由があります。それは、「どんなことがあっても毎日学校に行く。」そう決めているから

です。一年生から、今日まで一度も学校を休んでいません。学校では、苦手なこともたくさんあります。わたしは、みんなと同じように体いくをしたり、二百だんかいだんを登ったりできません。それでも、わたしは何よりも学校が大好きです。

学校では、みんながわたしのびょう気の事も知っています。

「大じょうぶ、つかれてない。」

と声をかけて、わたしの心と体をたすけてくれます。みんなの気持ちがとてもうれしくて、心強く思います。みんなのやさしい心から、たくさんのおやすみパワーをもらいます。わたしの心と体は元気になります。みんなは、ふしぎな力をもつまほう使いのようです。

わたしは、学校に行くために、心ぞうともたくさん話し合いをして、体を大切にしています。たくさん、たくさんのがまんで、

「いやだー。」  
とさけびなくなる日もあります。でも、みんながいる学校が大好きだからがんばれます。一日でも、一分でも学校に長くいたいです。そして、わたしと同じようにびょう気でたかっている人に、

「学校は楽しいところだよ。」  
と伝えていきたいと思います。